

星屑

No.129

Aug. 1985

月には二つぎが
いると思っただけ
実はプードルなん
ですぬ!



わん



みんなの
月の表面に!!!
いかる人
いかる
ネグ



たぬきではなう月を
せめて
いれたいと...

星屑

ε-200

仕掛人 Tsu

ハレー彗星が帰ってくるより先に、今春、私は熊本へ帰ってることができました。ハレー歓迎のお祭りに、どうにか間に合ったようです。今、ハレーを迎える準備を大あわてでやりながら、熊本から出て行ったあの日のあの夜の事が思い出されます。そうです。私達の熊本での最後の夜(その時は「最後」になるかもしれないと思っていた)、南中しかかった北斗七星と北極星との間をIRAS・アラキ・オルコックが巨大な雲のかたまりとなって駆け抜けて行ったのです。私も片付けの全て終った我家の庭で、レリーズなしで(T接点を使って)固定撮影をしました。それから、役員名簿からは抹消され、やけくその友の会会員として、いつ来るとも知れぬ「星屑」を待ちながら、ただひっそりと(知る人ぞ知る)彼の地で暮しておりました。

それがどうでしょう。今春再び転勤といううまい話に乗って帰熊し、博物館に顔を出したのが間違いの始まりで、ε-200の運搬を頼まれてしまいました。こんな用件を頼む時には得体の知れぬ魔力があるのだと私は信じているのですが、つい気軽に引受けてしまう羽目になった訳です。

それから先のことは皆さんにも想像がつくと思います.....

そうです。ε-200は、最初から私の管理下におかれるはずであったかの如くに振舞い、そして私は、ε-200をセットすることに全力をあげる事と成りました。だれもが、そうすることが当然だという目で見ていますから、私がそのことに疑問を持つことは許されない事のように。しかし、ε-200の購入と私の転勤とは何の関係もないところで決定された事なので、私の身の上に起こったことの不思議な出来事は、きっと宮本さんの「あの不思議な魔力」のせいには違いないのです。

ところで、ε-200は皆さんよく御存知の高橋製作所の自信作。写真撮影を意識した鏡筒です。口径200mm, F1:4, FL800mmでこれは補正レンズを使うのが前提のカタディオプトリック系の光学系で、ハイパーボライドカメラと呼ばれています。ハイパーボライドとは双曲面のことで、接眼部の補正レンズとの組合せで、広視野・低収差が得られるそうです。パラボラに補正レンズを組合せるMTシリーズや他社製品とは一味違う発想です。光学設計部の桑部長や川村幹男氏らの活躍とコンピューターによる光線追跡の成果だと思いと、今後もうすごい製品が出るのかなと期待がふくらみます。我が天文台では、ε-200は第二観測室の主望遠鏡です。1m程の鉄柱ビラー(会員の自作)の上に高橋製の160P型赤道儀を据え、M型マッテプレートを使ってD型6.5cm屈折と同架してあります。モータードライブはこれも高橋製PD-4XYを使用しています。

今年は春先から梅雨にかけて、何とも雨続きで、満足に調整できる日が少なく、又、調整よりも先にすぐ写してみたいくなる悪い病気も度々再発した事もある、今のところ800mm 直焦でノータッチ3分(何ということだ!!)程度の精度では極軸が合っていると思われます。思われる...という事の裏には他には誰も確かめた人がいないという恐るべき事実がある。

光学系がシャープになるとビント合わせがシビアになると予想をし、あまり恥をさらしたくないので、 $\epsilon-200$ からは速さかっていたいというのが本音なのですが、あえてやってみました。ワイドマウント+ニコンFボディで挑戦。ビントガラスのマット面で星像はたて長 $\leftrightarrow$ よこ長の間を行ったり来たりさせながら最小星像とおぼしきところでストップ。写った星像をルーペで見た所では、「まっまのビント」だと思ったんですが。総会でもお見せした通り、スライドプロジェクターを使って大写しにすると、星像の真中に斜鏡の影が...。「ビントがシビア」を再確認すると同時に、「ビントびったし」の時には極めて鋭い星像になるだろうと思いました。

そこで第2弾!。こんどはブローニー判を使って挑戦。フィルムはフジカラー400。何とPアダプター、Mアダプター、吸引式6×7ホルダー等々、全てそろえてしまったのです。さすが県民天文台// 個人では(特に私のような者は)なかなかこうはいきません。今度はビントガラスホルダーとFM60(ルーペ・高橋製)を使用、高倍なので最初はとまどって、ビントガラスの星像がうまく視野にこない。あわてていたんですねー。24.5φのアダプターをはずすのを忘れていました。(拡大用アイピースとしても使えるのです) 今度は大丈夫、ちゃんと星が見えます。これなら何とか私も最少星像付近に合わせられます。

ここでまた病氣。ガイド鏡の不調を良いことに、ノータッチ1分// 3分//

結果は...、ビントはOKでした...が、いくらF4でもFL800mm、カラーの400で1分、3分では見るべき写真は写りませんよね/今度こそ頑張ります。

こうして一通りの準備が終わったところ梅雨も本格的となり、又、私は次の病氣を得て、 $\epsilon-200$ はその相手をして遊んでくれる友を求めて、夜な夜な泣いているとかいう話です。

皆さんも天文台へ行って $\epsilon-200$ をさわって遊んで、なぐさめてやって下さいね

徒然なるままに夜暮し

安達 智子

それは天文台の総会が終って数日たったある日のこと、事務局から分厚い封筒が送られてきました。「今度の星屑は厚いな、係の人ががんばってるんだな」と思いながら開けて出てきたのは星屑とそれよりもっと厚い原稿用紙でした。「なんだこれは...?」

私は天文研究会の頃から入っていますが天文台にはほんの数回しか行ったことがなく、ほとんど休会状態でした。最近ようやく足ができ、これで好きなときに行けると喜んでます。もっとも楽しみにしていた日食、月食は雨で中止となり出はなをくじかれたような気はしています。

久しぶりの天文台、星空、やっぱりいいものです。ところがしばらく見ていないうちに星座を忘れて「えっとあのあたりは何だったっけ」とあわてて早見盤を見る始末です。星座物語も人物名がごちゃごちゃでこれでお客さんに説明できるのだろうかと若干不安ですがまあなんとか適當になるでしょう。

今、土星が見やすくなっていますが私が初めて土星を望遠鏡で見たのは7年ほど前、学校の屋上でした。6センチくらいので見たそれは、小さくかわいらしくまるでおもちゃの串だんご（こう言うときみんな笑いますが本当にそう思ったのです）のようだと思いました。みんなに見せるために絵を書いて中に貼ってあるんだと冗談を言った人がいましたがそれが冗談とは思えないくらい今望遠鏡を向けている星に実際に輪があって空に浮いているということが不思議に思えました。初めて土星を見たとき歓声を上げるお客さんを見るたびにそのときのことを思い出します。土星をどう感じたかは分かりませんがいつまでも心に残るものであってほしいと思います。

毎日暑い日が続きます。寝苦しくて目がさめました。ふと見上げた空にはペルセウスが上りブレアデスが輝いています。空気もひんやりして昼間の暑さがウソのよう。午前3時、学生時代なら合宿その他でたびたび見ていましたが最近は軟弱になったのかそんな時間まで起きたこともありません。これを読んでいる人の中にも「以前はよく見ていたけど最近はさっぱり」という人はいませんか？やっぱりたまには起きてみるものですよ。見慣れている星の引き締まった表情に思わずドキリとさせられます。ハレーもやってくることだし、また活動を始めたいと思います。

ペルセウス座の流星群

中田 季予子

“流星群”というものを初めて見たのは、高校2年の夏休みでした。夜空を見ている時に偶然見つける“流れ星”ではなく“流星群”を見たのです。

クラブの天体観測で、例年通りペルセウス座の流星群を見よう、と2泊3日のキャンプに行きました。場所は、阿蘇の国民休暇村。1日目の夜は雲がどーんと出まして、時々、思い出したように星が見える程度でした。それでも前年の雲海キャンプ場での苦しみを思えば“いい天気”ではありました。何せ、雲海キャンプ場では、その名のごとく“雲海”に2晩とも閉じ込められてしまったのですから……。とにかく1夜目はダメでした。

夢中になったのが流星さがし。実は今まで流星を見たことがなかったのです。（一部からは「ほんとオー!？」という声が…）1つ見つけるともっと見たくなり、結局、座り込んで首が痛くなるまで探し続けてしまいました。（思ったんですけど、「流れ星に願いごとを…」なんて、実際どうでもよくなりますね）見てるだけで大満足。

最後になりましたけど、無知な私たちに、いろいろ教えて下さった方々。心から、どうもありがとうございました。 RY まちと

BY まちと

* * * * *

まちこ様、THANK YOUです。えー、私もあんなに大きな望遠鏡で見たのは初めて。いつもは、榎木の田舎で、双眼鏡を使って観測しているんです。今回は、デネブやアルビレオなど、1つ1つを望遠鏡で見ることができたので、もう、めっちゃめっちゃ感激!! 星がとても近くに感じられました。

夜、ただぼんやりと星を見ていると、なんだか不思議な気分になります。心が透明になっていくような、何か大きなやさしさに包まれているような…。星を見上げる事は私にとって、明日を生きるための活力源なんです（ちょっとオーバーかな？）これは私だけじゃなく、部員全員がそう思っていると思うんです。知識はないけどヤル気だけはある私達。御指導のほど、よろしくお願い致します。（自衛隊のお兄さん、コーヒーおいしかったです。どうもありがとうございました。非常食も食べたかったよぉー）

まるっきりに感想になってない…。す、すみません、ごめんなさい。水かぶりますから…。私はあの日、「マドレーヌ」を置いて帰った薄情な沙由利です。けけけ……。

インフォメーション

ジャコビニツインナー彗星

8月16日(金)

二重星団のすぐ横を通過

定例 星を楽しむ会

8月24日(土)

於 天文台 7:00より

新入会員の紹介コーナー

- ☆287 福島 靖 宇土市花園町953-2 (〒869-04)
- ☆288 吉永 洋 熊本市春日町50-1 (〒860)
- ☆289 富田 昌人 熊本市壺川2丁目10-6 (〒860)
- ☆290 毛利 浩樹 菊池郡大津町室 965-4 (〒869-12)
- ☆291 天文同好会 熊本市黒髪3丁目12-16 (〒860)
- ☆292 永井 聰 熊本市帯山2丁目13-14 (〒862)
- ☆293 松崎 達二 上益城郡御船町木倉223 (〒861-32)
- ☆294 森 秀樹 熊本市黒髪4丁目9-24 (〒860)
- ☆295 三牧 裕明 熊本市保田窪2丁目4-37 (〒862)
- ☆296 佐竹 由美 熊本市島崎5丁目15-30 (〒860)
- ☆297 中島 幸子 熊本市長嶺町2255-70 (〒862)
- ☆298 名和 将光 熊本市水前寺公園14-7 (〒862)

天文台日誌より

- 6/9 ㊦-200極軸合せ。晴れていると思ったら、もうだれもいなかった。アークトゥールスとスピカと土星が見えるので、しかたなく極軸合せに挑戦!! 21:50頃完全に星が見えなくなり、今日はこここで。(艶島)
- 6/14 6月10日の運営委員会に学生が1人も来なかったのは、完全に忘れていたからだそうです。あんなにたくさんいるのに……! 晴れたり曇ったり。(安達)
- 6/15 16時着、部屋の大掃除。みなさん、天文台の美化にご協力下さい。
雨が降りそうなので帰る。19^h30^m
※トイレを久しぶりにのぞいてみたら、天井に穴があいていた!? (永井)
- 6/20 曇天だったので、20時ころ来てみたらすでに10名ぐらいの来台者があり、熊大生が、土星を見せていました。望遠鏡で見えたのは、しし座二重星、ミザール、ヘルクレスのM13、アルビオ、こと座のM57等、やっと存在がわかる程度しか見られませんでした。
- 6/22 大分天文協会の船田先生、矢田さん、福岡天文協会の中村さん山根さんが来台。でも星は見えず、いろいろなお話で花が咲く。船田先生のすばらしいビデオを見せていただく(永井)

- 6/29 望遠鏡のビント合せのネジがゆるんでドロチューブが動かかなくなっています。(渡辺T)
- 6/30 9時以降、若いカップル2組来台。でも厚い雲の中に北斗だけが見えていました。
土星、こと座環状星雲観測 ラックビーオン、一応調整しました。(宮本)

編集後記

馬場口 智子

今回、初めて「星屑」の編集に参加させて頂きました。熊大の木下くんの指導の下でどうにかこうにか完成しました。あっ、それから原稿を書いて下さったみなさん、どうもありがとうございました。今月号は読者のみなさんもお覧の通り、女性の記事が多く、ロマンティックな雰囲気の記事になっています。アメリカの宇宙飛行士の候補者の中にも日本人3人のうち女性が1人選ばれたニュースを見て、これからの天文研究会の中でもっと女性が活躍しなければ…なんて変な事を考えました。でも徹夜で星空の観測なんてお肌にはとても悪いのだそうですね。星を見る女性のみなさん、あんまり無理せずに夜空とつき合ってください！ その点プラネタリウムはとても便利な機械ですね。夏休みに入ってプラネタリウムを見に来る人も多くなりました。冷房がきいて、蚊にさされる心配もなく美しい星空を楽しめるプラネタリウムには毎日子供たちが多勢訪ねて来ます。先日行なわれたハレー彗星講演会にも予想以上の人たちが集まって楽しんでいかれたようです。私は天文台へもなかなか出掛けませんが、台長をはじめ運営委員になって活動をされている方々にはお忙しい中、大変だろうなあと考えて見えています。

まだまだ暑い日が続きます。海や山に出掛けて夏を楽しんでいる方々もおられるかもしれませんが、夏休みの観測結果等おもしろい話がありましたら「星屑編集部」までどんどん原稿をお寄せ下さい。ではみなさんお体に気を付けて……来月号まで……

熊本県民天文台「星屑」 1985年8月号 通巻第129号

発行所 熊本県民天文台 〒861-42 熊本県下益城郡城南町

Tel 096428-6060

熊本県民天文台事務局 〒860 熊本市古京町3番2号 熊本博物館内

Tel 096-324-3500

編集担当

K. KINOSHITA, T. BABAGUCHI